図 47

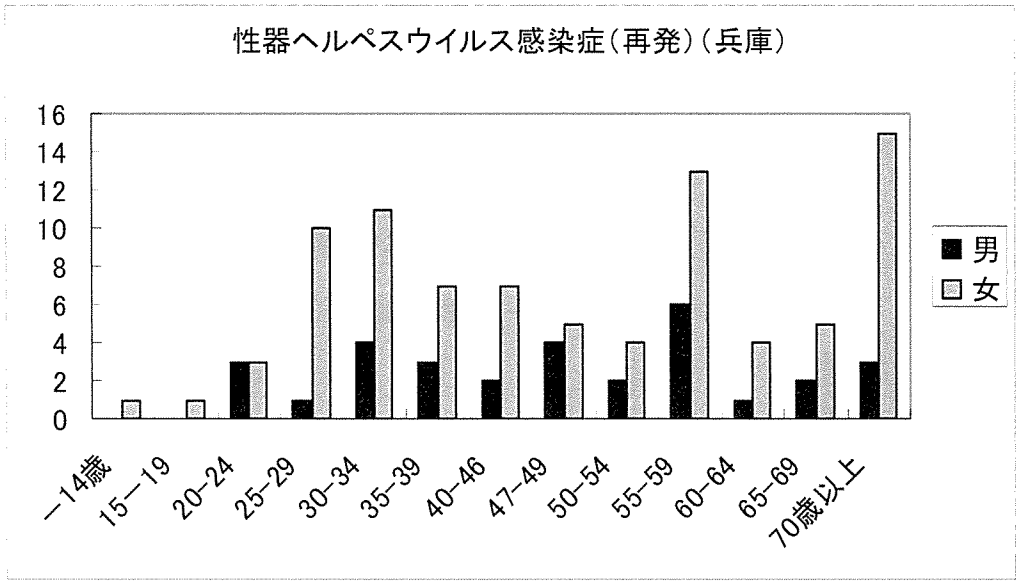

性器ヘルペスウイルス感染症（再発）（兵庫）
16
14
12
10
8
6
4
2
0
男
女
－14歳
15－19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-46
47-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70歳以上

図 48

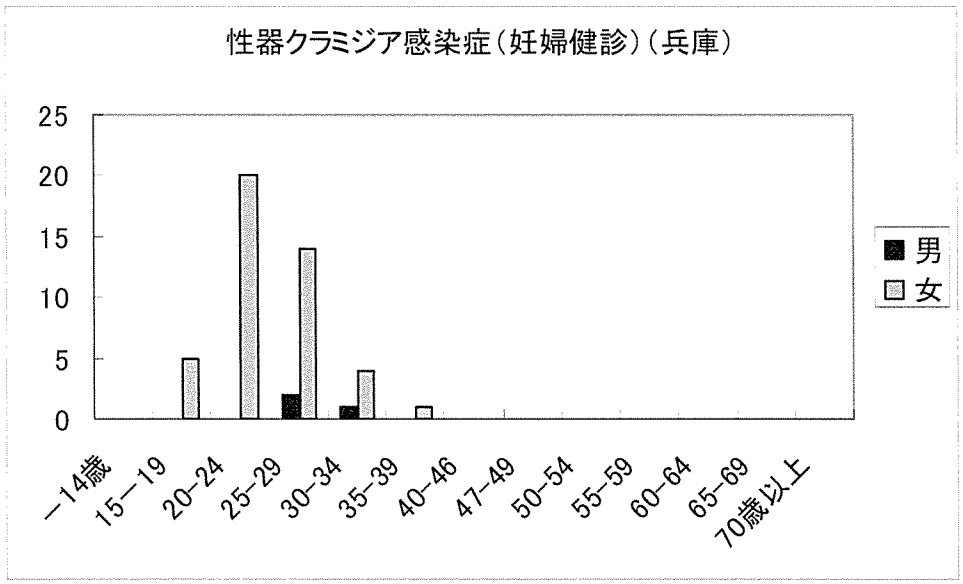

性器クラミジア感染症（妊婦健診）（兵庫）
25
20
15
10
5
0
男
女
－14歳
15－19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-46
47-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70歳以上

図 49

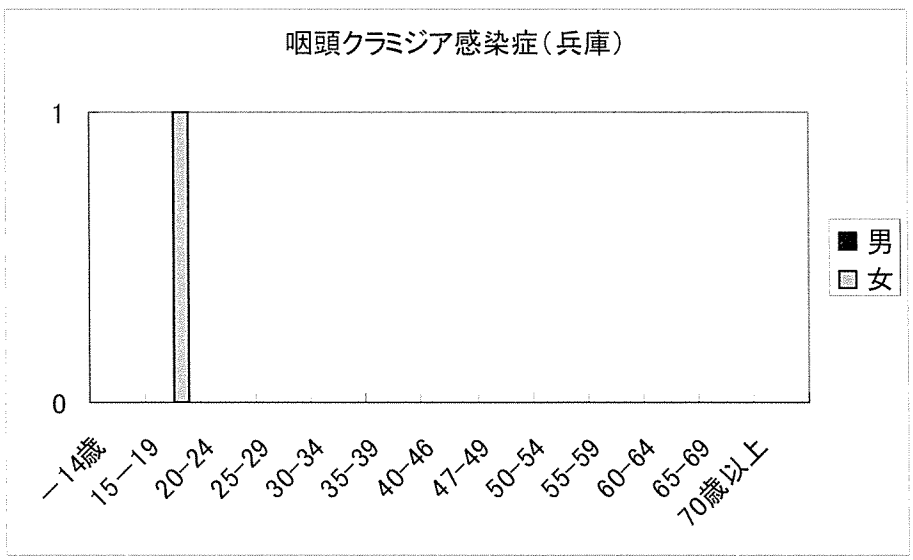

咽頭クラミジア感染症（兵庫）
1
0
男
女
－14歳
15－19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-46
47-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70歳以上

図 50

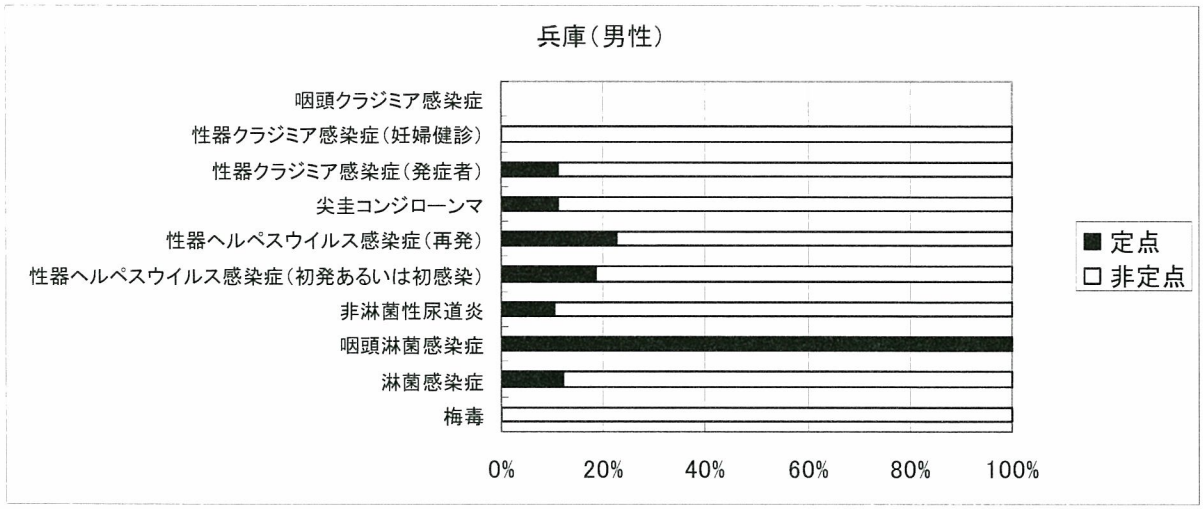

兵庫（男性）
咽頭クラジミア感染症
性器クラジミア感染症（妊婦健診）
性器クラジミア感染症（発症者）
尖圭コンジローンマ
性器ヘルペスウイルス感染症（再発）
性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染）
非淋菌性尿道炎
咽頭淋菌感染症
淋菌感染症
梅毒
0%
20%
40%
60%
80%
100%
定点
非定点

図 51

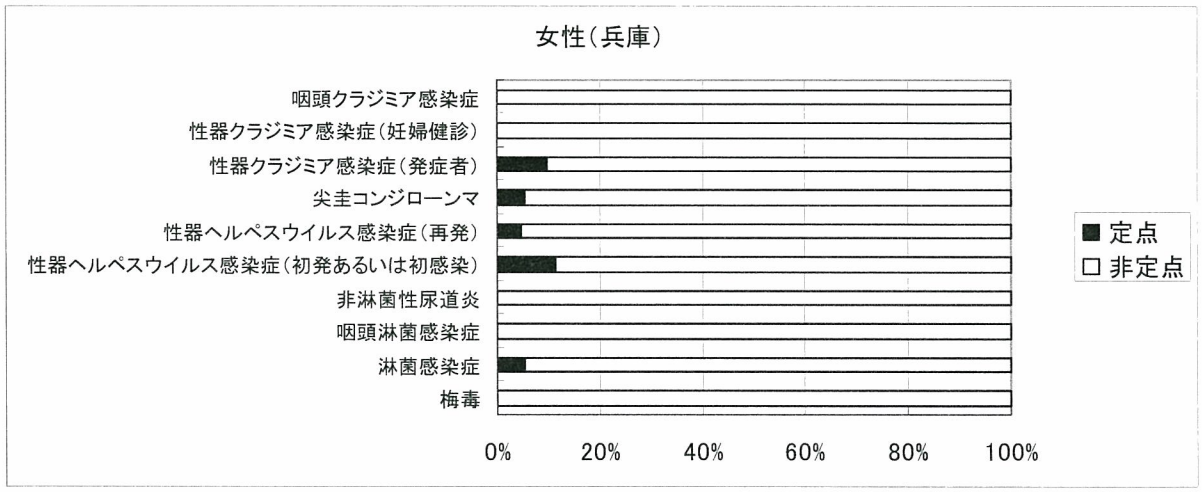

女性（兵庫）
咽頭クラジミア感染症
性器クラジミア感染症（妊婦健診）
性器クラジミア感染症（発症者）
尖圭コンジローンマ
性器ヘルペスウイルス感染症（再発）
性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染）
非淋菌性尿道炎
咽頭淋菌感染症
淋菌感染症
梅毒
0%
20%
40%
60%
80%
100%
定点
非定点

図 52

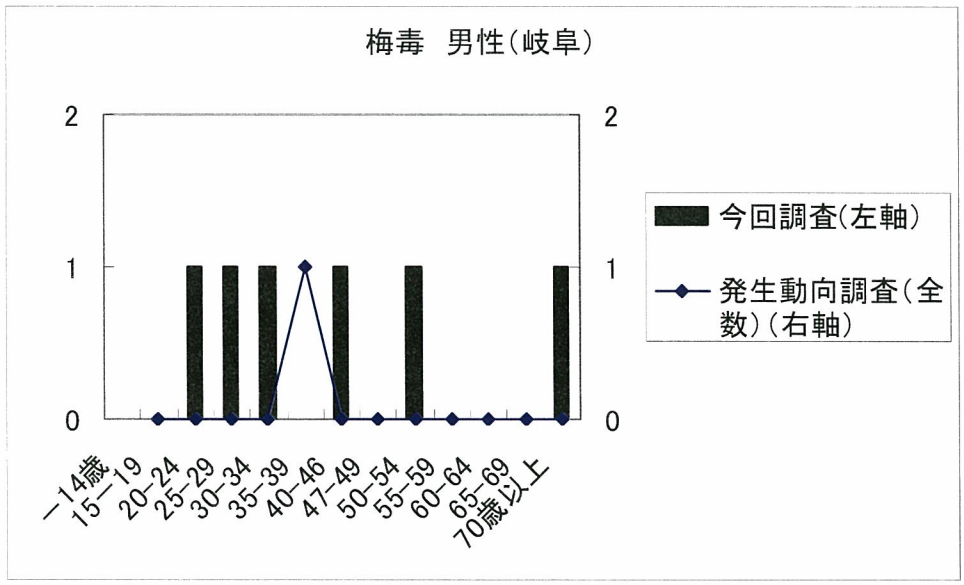

梅毒　男性（岐阜）
2
1
0
2
1
0
今回調査（左軸）
発生動向調査（全数）（右軸）
－14歳
15－19
20－24
25－29
30－34
35－39
40－46
47－49
50－54
55－59
60－64
65－69
70歳以上

図 53

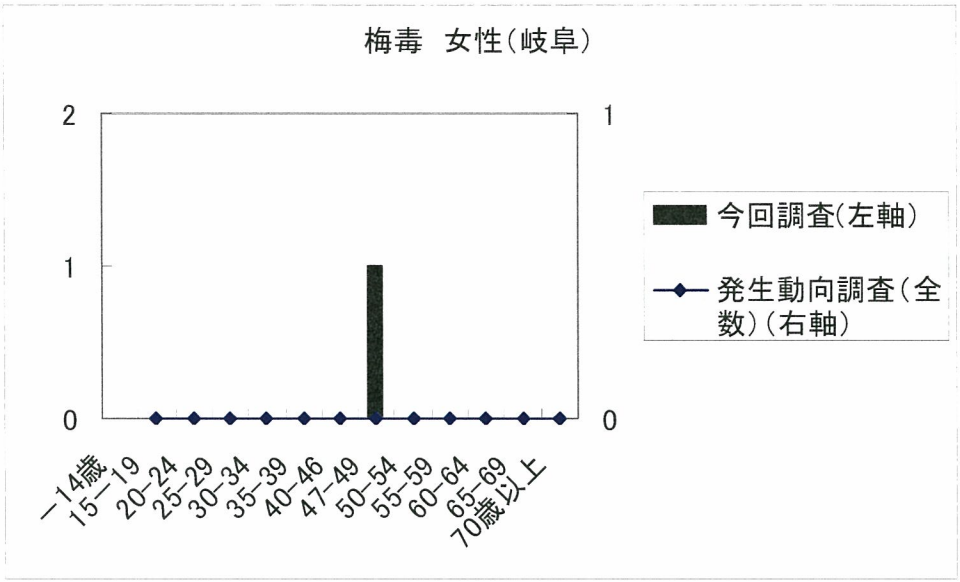

梅毒　女性(岐阜)
2
1
0
1
0
今回調査(左軸)
発生動向調査(全数)(右軸)
−14歳
15−19
20−24
25−29
30−34
35−39
40−46
47−49
50−54
55−59
60−64
65−69
70歳以上

図 54

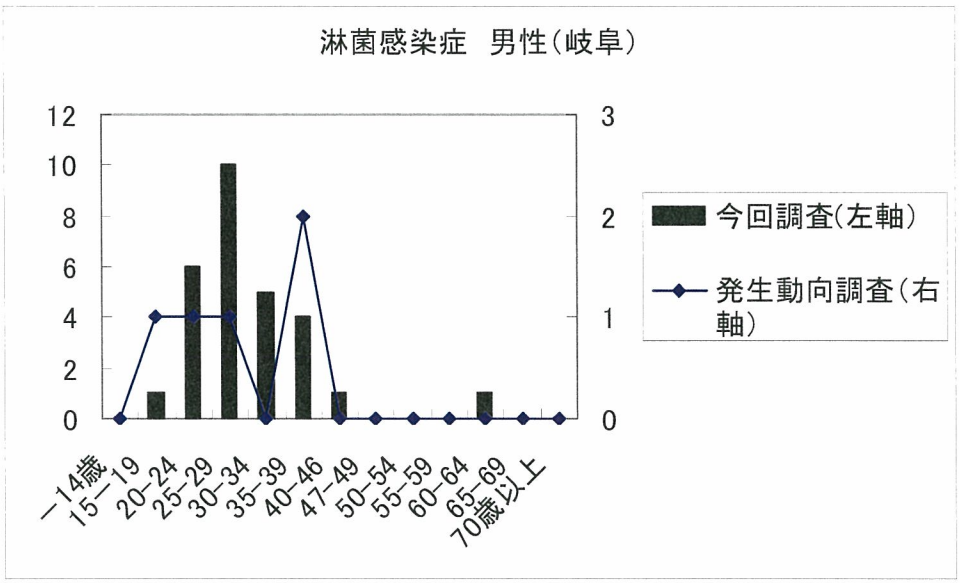

淋菌感染症　男性(岐阜)
12
10
8
6
4
2
0
3
2
1
0
今回調査(左軸)
発生動向調査(右軸)
−14歳
15−19
20−24
25−29
30−34
35−39
40−46
47−49
50−54
55−59
60−64
65−69
70歳以上

図 55

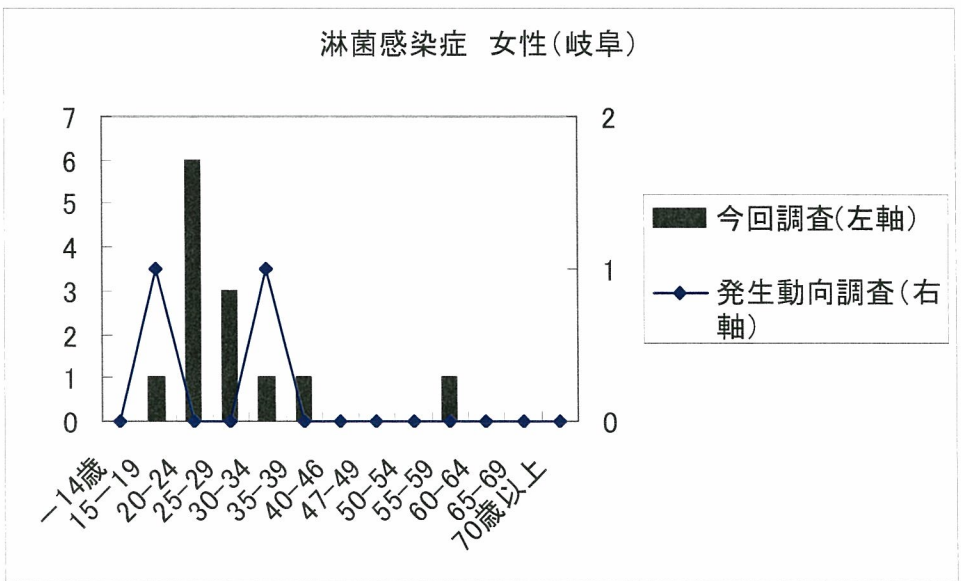

淋菌感染症　女性(岐阜)
7
6
5
4
3
2
1
0
2
1
0
今回調査(左軸)
発生動向調査(右軸)
−14歳
15−19
20−24
25−29
30−34
35−39
40−46
47−49
50−54
55−59
60−64
65−69
70歳以上

図 56

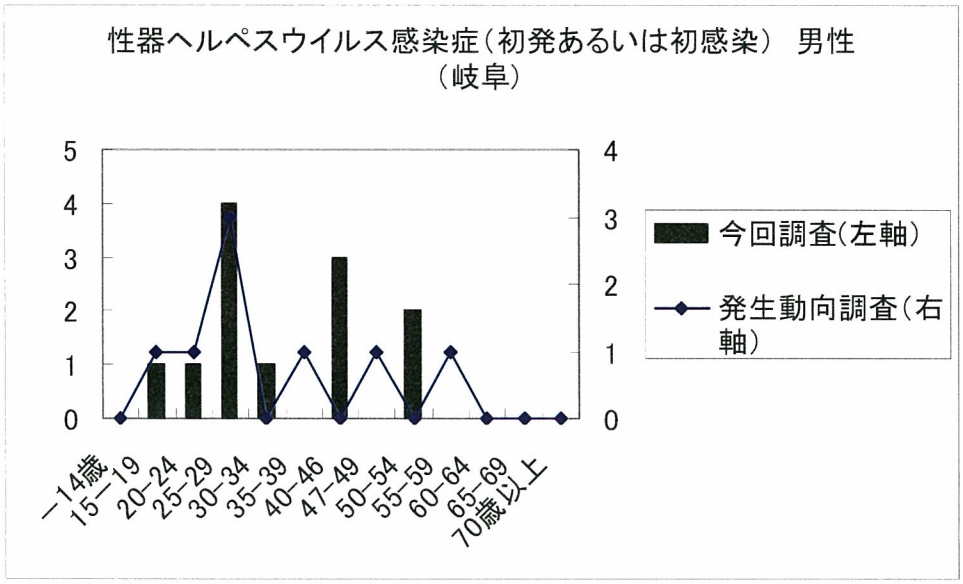

性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染） 男性
（岐阜）
5
4
3
2
1
0
4
3
2
1
0
今回調査(左軸)
発生動向調査（右軸）
－14歳
15－19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-46
47-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70歳以上

図 57

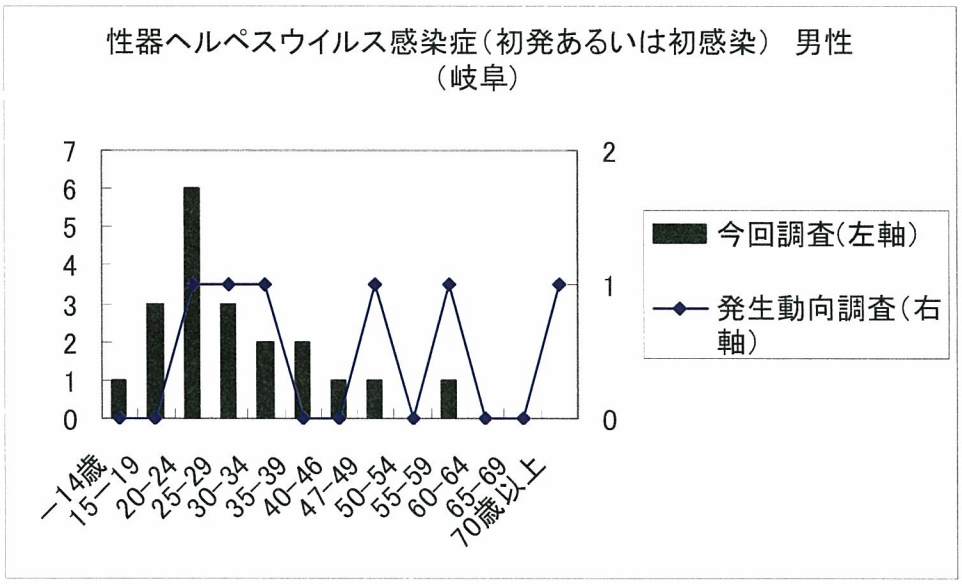

性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染） 男性
（岐阜）
7
6
5
4
3
2
1
0
2
1
0
今回調査(左軸)
発生動向調査（右軸）
－14歳
15－19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-46
47-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70歳以上

図 58

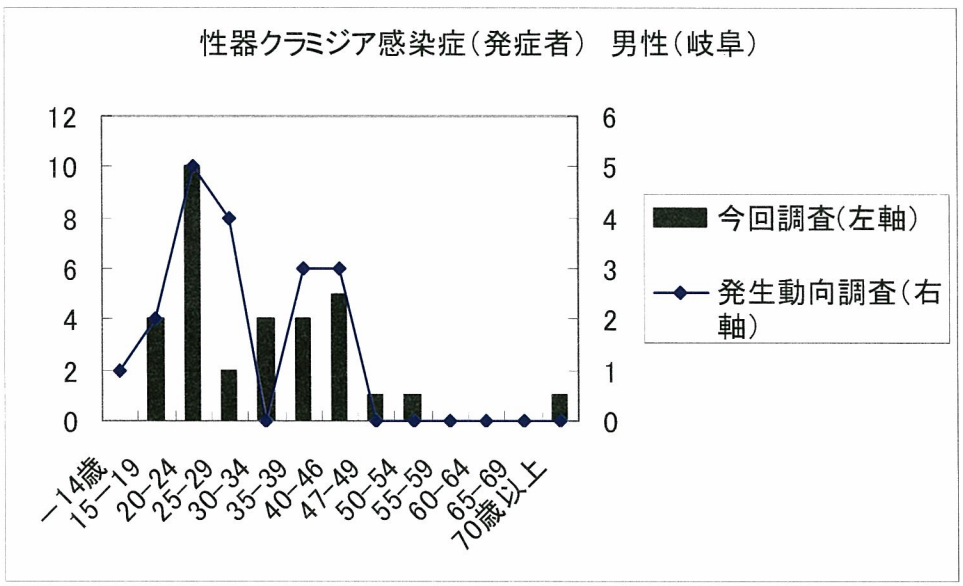

性器クラミジア感染症（発症者） 男性（岐阜）
12
10
8
6
4
2
0
6
5
4
3
2
1
0
今回調査(左軸)
発生動向調査（右軸）
－14歳
15－19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-46
47-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70歳以上

図 59

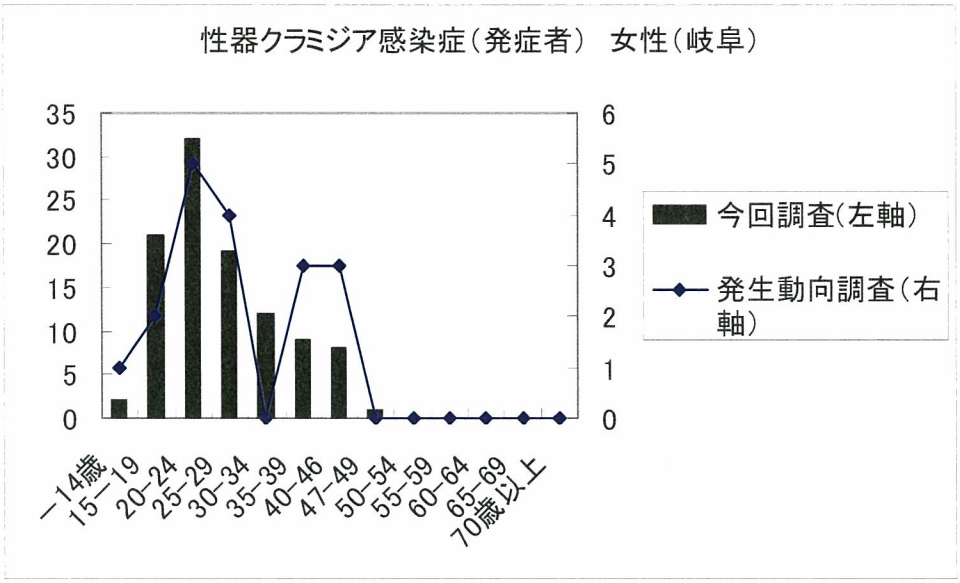

性器クラミジア感染症（発症者） 女性（岐阜）
35
30
25
20
15
10
5
0
6
5
4
3
2
1
0
今回調査(左軸)
発生動向調査（右軸）
－14歳
15－19
20－24
25－29
30－34
35－39
40－46
47－49
50－54
55－59
60－64
65－69
70歳以上

図 60

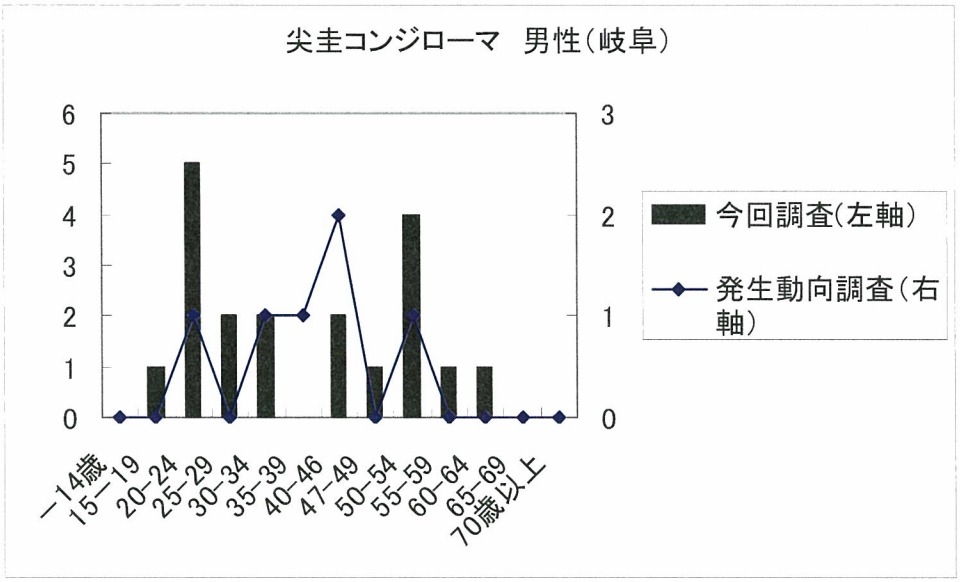

尖圭コンジローマ 男性（岐阜）
6
5
4
3
2
1
0
3
2
1
0
今回調査(左軸)
発生動向調査（右軸）
－14歳
15－19
20－24
25－29
30－34
35－39
40－46
47－49
50－54
55－59
60－64
65－69
70歳以上

図 61

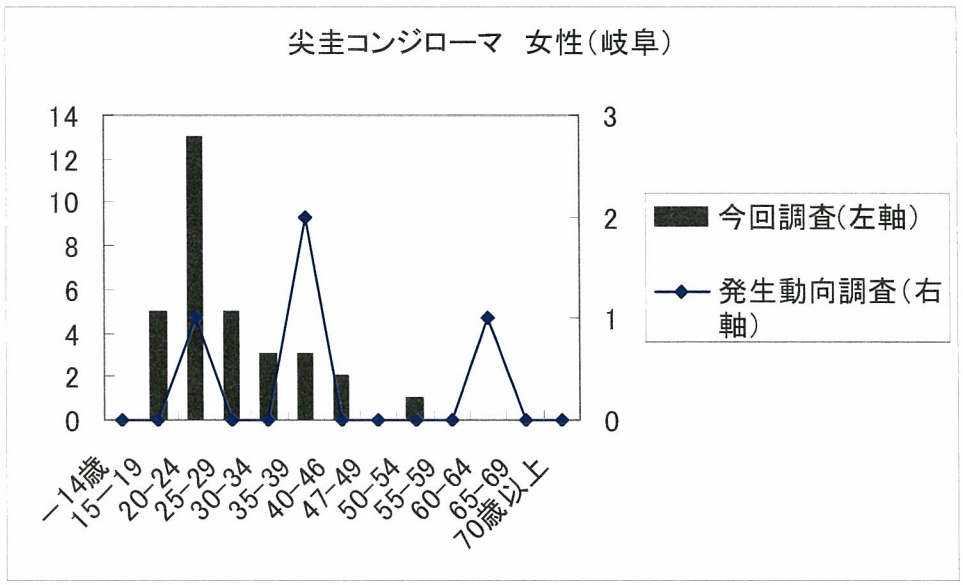

尖圭コンジローマ 女性（岐阜）
14
12
10
8
6
4
2
0
3
2
1
0
今回調査(左軸)
発生動向調査（右軸）
－14歳
15－19
20－24
25－29
30－34
35－39
40－46
47－49
50－54
55－59
60－64
65－69
70歳以上

図 62

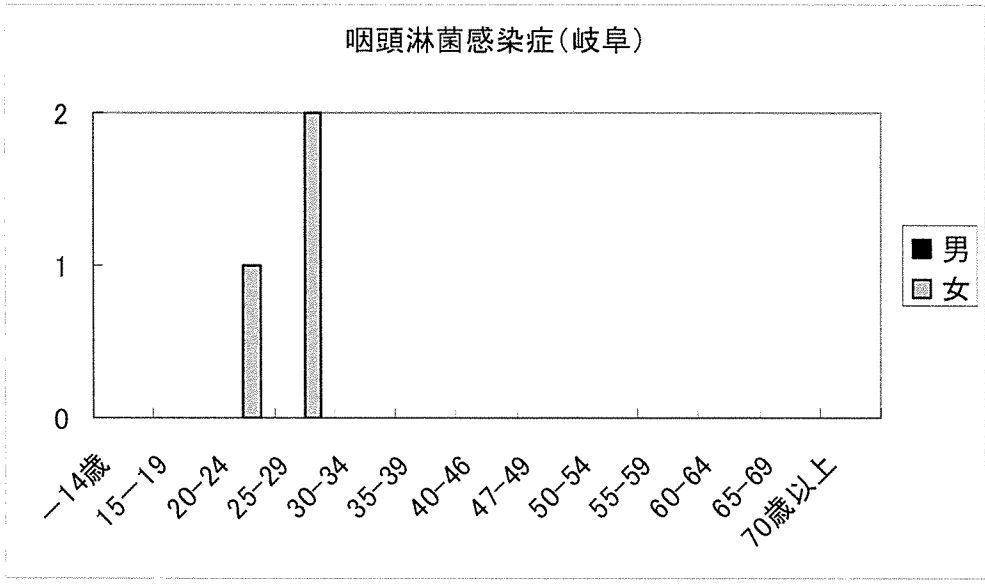

咽頭淋菌感染症（岐阜）
2
1
0
男
女
−14歳
15−19
20−24
25−29
30−34
35−39
40−46
47−49
50−54
55−59
60−64
65−69
70歳以上

図 63

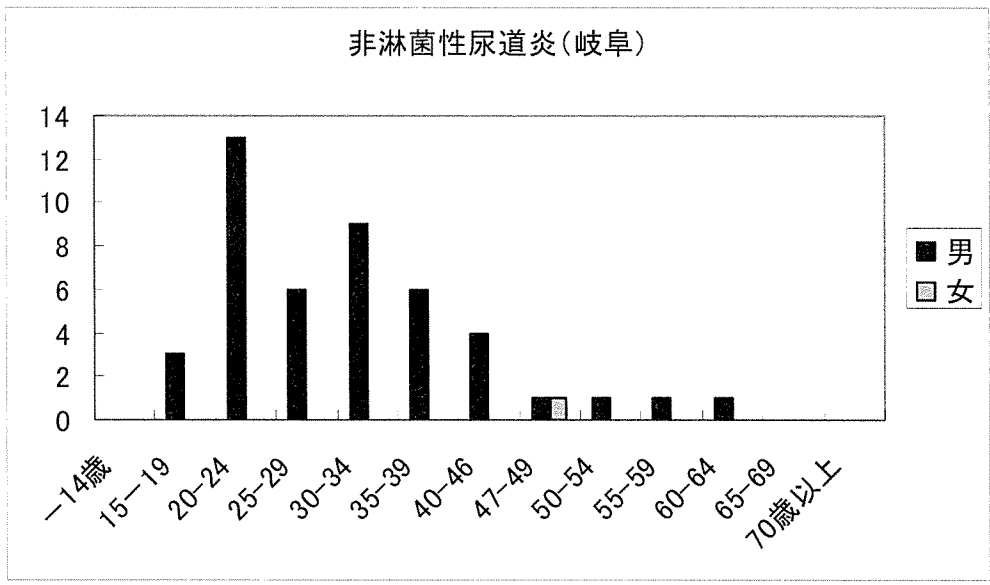

非淋菌性尿道炎（岐阜）
14
12
10
8
6
4
2
0
男
女
−14歳
15−19
20−24
25−29
30−34
35−39
40−46
47−49
50−54
55−59
60−64
65−69
70歳以上

図 64

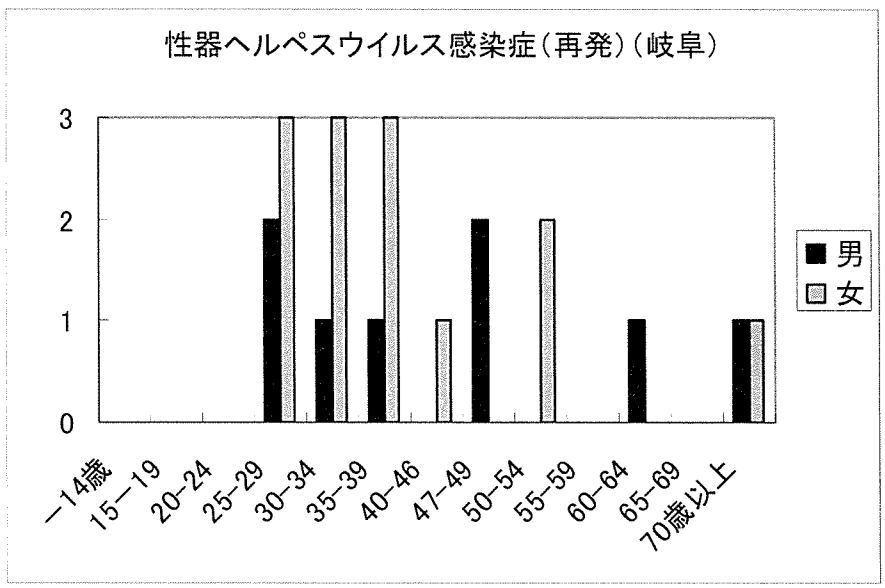

性器ヘルペスウイルス感染症（再発）（岐阜）
3
2
1
0
男
女
−14歳
15−19
20−24
25−29
30−34
35−39
40−46
47−49
50−54
55−59
60−64
65−69
70歳以上

図 65

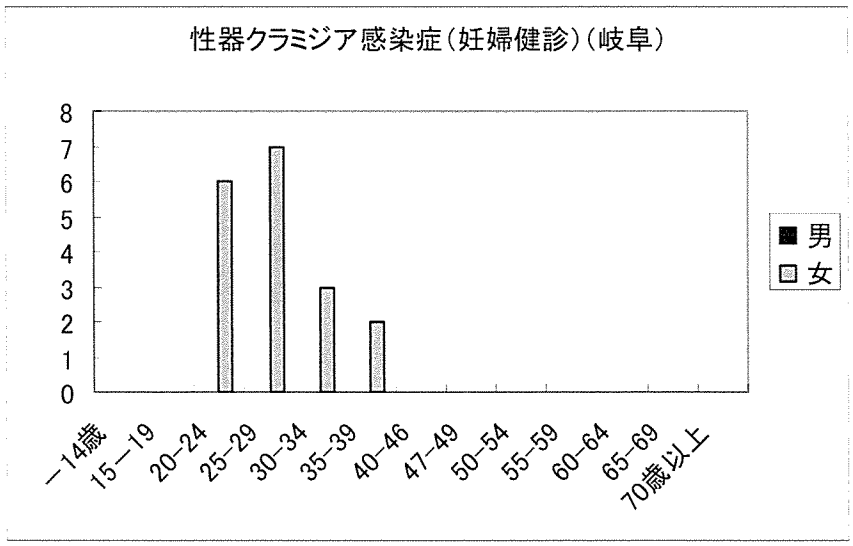

性器クラミジア感染症（妊婦健診）（岐阜）
8
7
6
5
4
3
2
1
0
男
女
－14歳
15－19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-46
47-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70歳以上

図 66

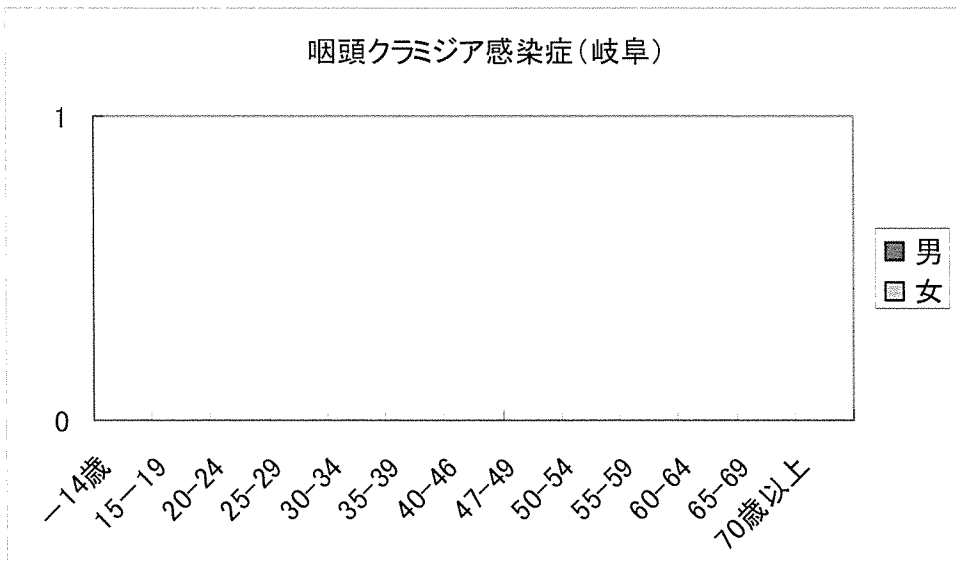

咽頭クラミジア感染症（岐阜）
1
0
男
女
－14歳
15－19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-46
47-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70歳以上

図 67

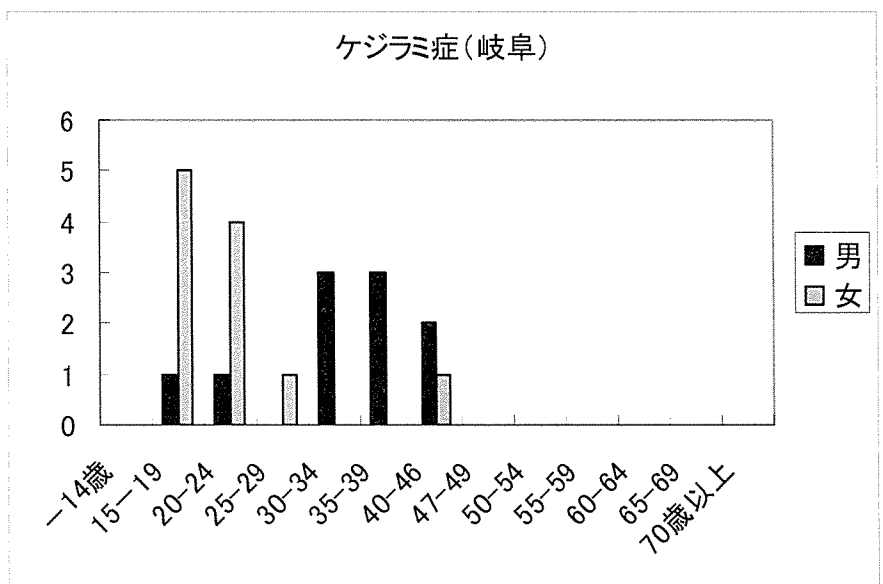

ケジラミ症（岐阜）
6
5
4
3
2
1
0
男
女
－14歳
15－19
20-24
25-29
30-34
35-39
40-46
47-49
50-54
55-59
60-64
65-69
70歳以上

図 68

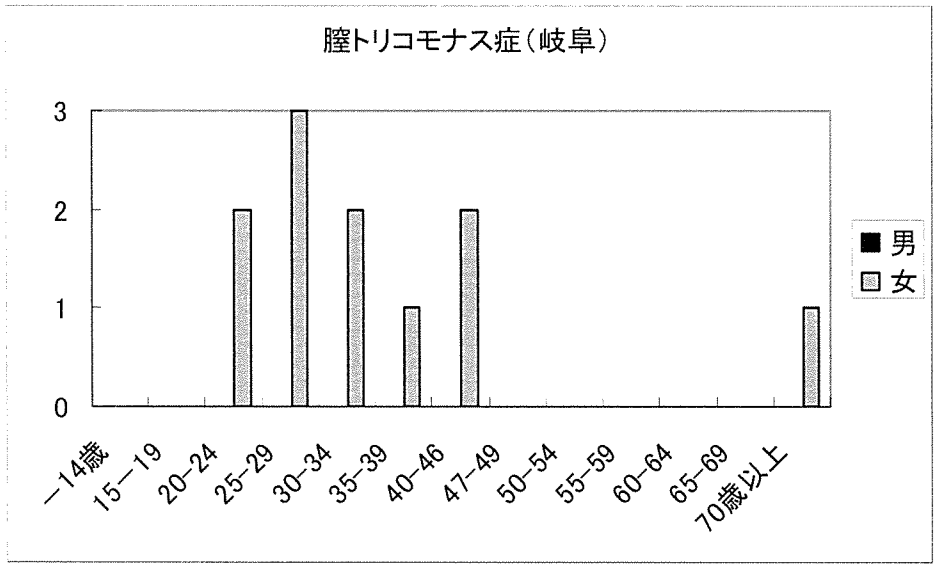

膣トリコモナス症（岐阜）
3
2
1
0
男
女
−14歳
15−19
20−24
25−29
30−34
35−39
40−46
47−49
50−54
55−59
60−64
65−69
70歳以上

図 69

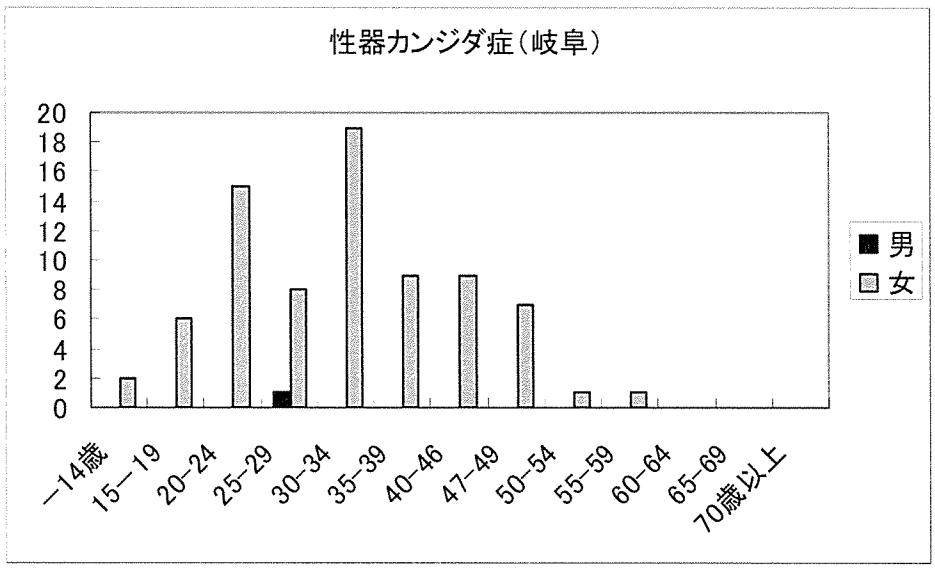

性器カンジダ症（岐阜）
20
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
男
女
−14歳
15−19
20−24
25−29
30−34
35−39
40−46
47−49
50−54
55−59
60−64
65−69
70歳以上

図 70

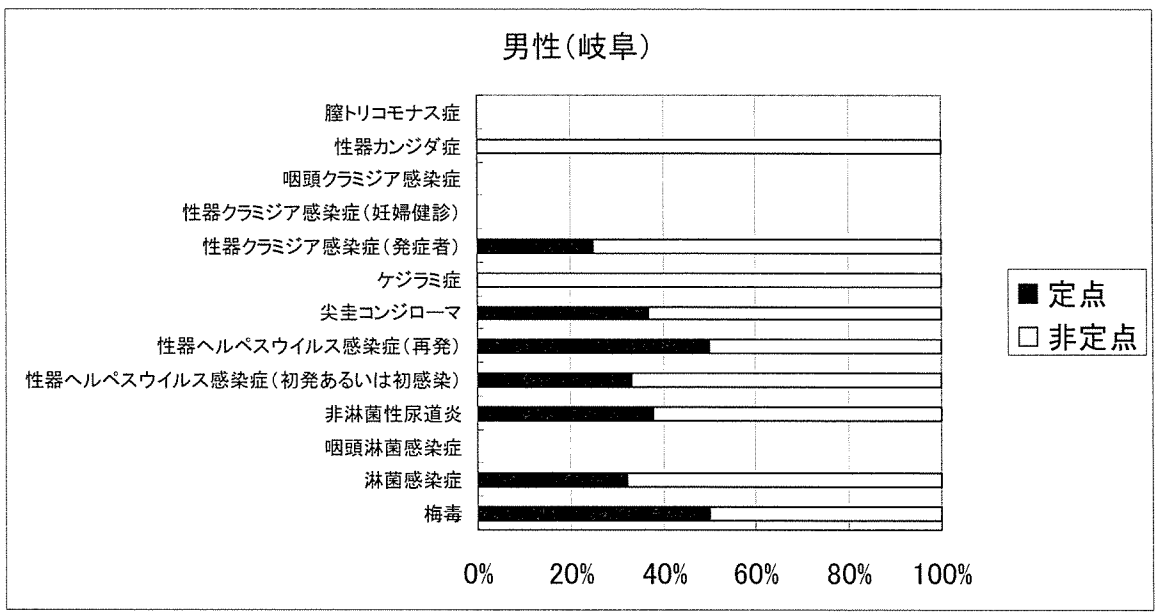
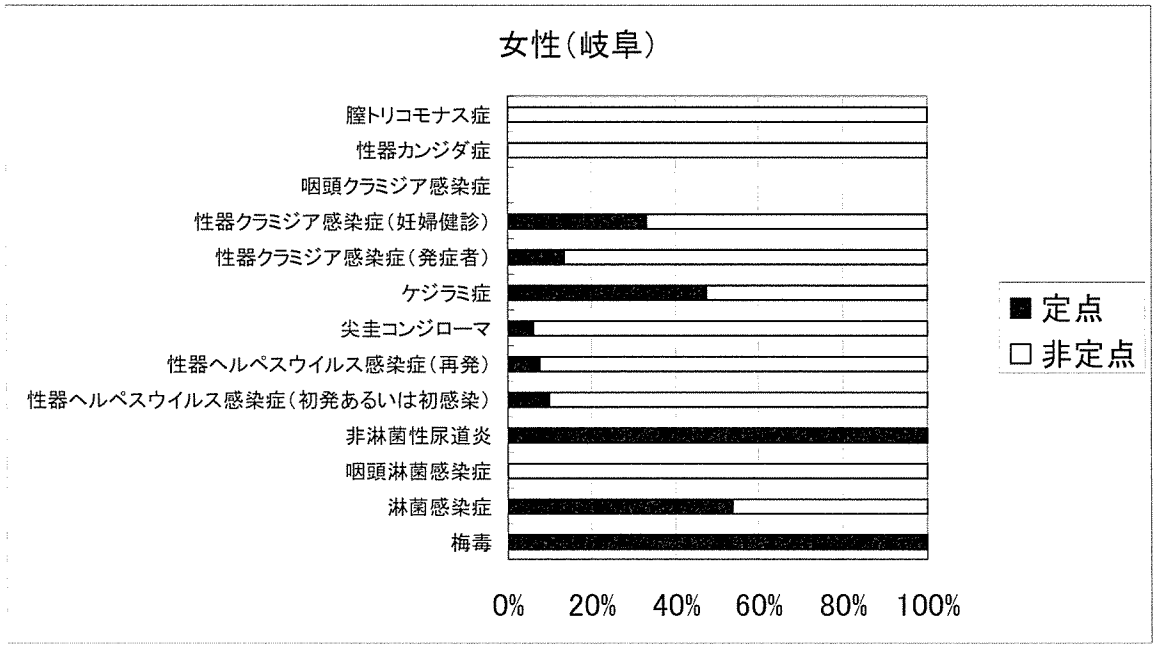

男性（岐阜）
膣トリコモナス症
性器カンジダ症
咽頭クラミジア感染症
性器クラミジア感染症（妊婦健診）
性器クラミジア感染症（発症者）
ケジラミ症
尖圭コンジローマ
性器ヘルペスウイルス感染症（再発）
性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染）
非淋菌性尿道炎
咽頭淋菌感染症
淋菌感染症
梅毒
0%
20%
40%
60%
80%
100%
定点
非定点

図 71


女性（岐阜）
膣トリコモナス症
性器カンジダ症
咽頭クラミジア感染症
性器クラミジア感染症（妊婦健診）
性器クラミジア感染症（発症者）
ケジラミ症
尖圭コンジローマ
性器ヘルペスウイルス感染症（再発）
性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染）
非淋菌性尿道炎
咽頭淋菌感染症
淋菌感染症
梅毒
0%
20%
40%
60%
80%
100%
■定点
□非定点

２．若年者の性感染症を早期に発見し、

治療に結びつけるための試行的研究

厚生労働科学研究補助金(新興・再興感染症研究事業)
性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究
(主任研究者：小野寺昭一)

若年者を対象とした性器クラミジア感染症の自己検査の推進と早期発見・治療のための体制つくり

研究要旨

性感染症に関する特定感染症予防指針に示されている若年層を対象とした性感染症予防対策について、検査の機会確保と受診しやすい体制整備を意図し、若者向けイベントを活用し郵送による自己検査を行った。イベントでの検査勧奨は主に関東地区で行ったが今後は学生によるピア活動によって関西での実施も期待される。若年者の受診行動については、グループインタビューの試行から、軽微な症状では受診動機にならず、パートナーとの関係にも左右され、受診を希望する医療機関も限られることが示唆された。学校を通じた自己検査の勧奨は、大学生の 0.05%程度の利用であった。さらに学校や保健所・保健センターを通して、医療機関との円滑な連携を図る必要がある。

分担研究者：小野寺昭一（東京慈恵会医科大学感染制御部）
研究協力者：白井千香（神戸市兵庫区保健福祉部）野々山未希子（筑波大学看護科学系）
中瀬克己（岡山市保健所）渡部享宏（Campus AIDS Interface）

A. 研究目的

2006 年末に改訂された性感染症に関する特定感染症予防指針には、若年層を対象とした予防対策の推進についてその具体策が示されている。若年者にとって、性感染症スクリーニングの自己検査の導入は検査方法がわかりやすく心理的負担も少ないと考えられる。また、トラブルが起こったときの性感染症の検査や治療に向かう促進因子(動機付け)や阻害因子(抵抗感)は何か、を明らかにし、保健所、保健センター等行政と学校、医療機関等との具体的な連携方法について考察する。若年者における性感染症の代表的な疾患としての性器クラミジア感染症の早期発見と適切な治療の推進を目的とする。

B. 対象・方法

調査内容

① イベント時の自己スクリーニング検査の導入と性行動調査

対象を 15～24 歳までとし、クラミジア自己検査郵送用キット（男性：初尿、女性：膣スメア）とアンケート用紙を、関東地区と関西地区のイベント時に配布した。検査結果の照会は研究班専用のホームページへ、携帯電話やパソコンでアクセスしパスワードを入力する事により確認する。

② 若年者の性感染症に関する受診行動について（フォーカスグループインタビュー）

大学生（看護系女子学生７人）に性感染症についての受療行動について、プレインタビューを行い、グループディスカッションから、若年者の性感染症に関する意識や受診へ結びつく手がかりを探った。

① 学校を窓口とした常時相談・検査の現状と課題

神戸地区で私立総合大学（学生数約１万人）の医務室（健康管理センター）において希望者

には常時、自己検査ができるクラミジア用キットとアンケート用紙を受け取ることができる窓口を設置した。アンケート調査も、医務室の職員の協力を得てキット配布時に同時に行った。検査の勧奨は学生会館、食堂、医務室等のポスター掲示による。

＜倫理的配慮＞

- 被検者へのインフォームドコンセント(紙面による説明と本人自署の同意書を含む)を行った。
- 検査結果の還元を被検者個人（希望者）へ可能とした。
- 調査研究の結果は特定の個人を同定できないよう報告することとした。

C. 結果

①イベント時の自己スクリーニング検査について、クラミジア自己検査郵送用キットの配布数と返信率・陽性率・性行動アンケート調査の集計は小野寺班のイベントグループで別途報告。若年者の集まるイベント時に自己検査を勧奨することで、受検者が性感染症のリスクを把握して、予防行動につなげる機会になる。

②看護学生７人へのプレインタビュー（抜粋）

・自分が性感染症を疑う時：症状（おりものの変化・局所の痒み・痛み等）が１週間～1か月位続くとき（1週間で症状が治まったら行かない）。相手が遊んでそうな時。

・受診を考える時：インターネットで調べる、友達に聞く、彼氏が勧めてくれたら行く。放置したら大変という情報があれば行く。別れた彼氏からうつってたら気持ちが悪いので治すが、今の彼氏のだったら「まっいいか」。

・受診先の希望：誰にも会わない病院、費用は3千円位まで、高そうなクリニックやマタニティーはいや、やさしそうな女医がいるところ、大きな病院の方がいい時もある。

・保健所の検査は？：知らない所、日中の検査は高校なら授業をサボれるが、中学ではサボっていけない。ＴＶや雑誌で有名人が「保健所へ行こう」と言ったら行くかも。

③検査希望の大学生には常時、自己検査ができるキットを受け取ることが出来る窓口を設置したが、10か月間で女性６人、男性１人と受検者は少ない（学生数の0.05%程度）。看護師が常駐し、希望者には相談も常時実施しているが、積極的な勧奨の機会はなく、ポスター掲示のみで検査を紹介しているためか動機付けが乏しい。

D. 考察

①イベント時の自己検査**を推進するために、若年者の検査コーデイネーターを養成**し、友人等への検査勧奨など、**ピアエデュケーション**を活用する。検査時に提供する情報が若年者の予防行動の向上に効果的かどうかを検討する必要がある（イベント時の自己検査担当の渡部Ｇと協力）。

② フォーカスグループインタビューによる質的調査を行う。自己検査時の性行動アンケート（量的調査）に加えて、グループダイナミクスの効果を検討する。これによって若年者における**医療機関受診の促進因子と阻害因子**を明らかにして、早期受診を可能とする医療体制を検討する。（①の検査協力者にフォーカスグループインタビューを加える等。）

③ 大学の保健管理センターでは、自己検査の普及より医療機関受診を円滑にすることが効率的ではないか。大学生は一人暮らしも多く、自己の健康管理の必要性も認識できるが、高校以下の若年者への導入はどうか、学校との連携方法も検討したい。今後は学校での検査窓口の近接性と信頼性、効率性から、検査キットの常時設置の要否を検討し、**医療機関受診の円滑化**

を図る。
以上の考察を深めるため、H19 年度の調査計画に①～③を予定し、研究を継続する。

E. 結論

最終目標としての体制は、受診者側の若年者のニーズと医療機関側の受けれ状況を考慮した、性感染症検査（性器クラミジア）と相談可能な環境整備である。若年者（特に 10 代）の性感染症の早期発見と早期治療が可能な医療体制を作ることによって、二次感染の拡大を防止する。

F. 発表（原著論文、総説、学会発表）

本年度は現在のところなし

分担研究報告所

若者を対象とした性感染症の実態調査と蔓延防止のための新たなシステムの構築
ー各種行事を活用した郵送法による性感染症のスクリーニングー

分担研究者： 小野寺 昭一（東京慈恵会医科大学感染制御部）
研究協力者： 白井千香（神戸市兵庫区保健福祉部）
渡部 享宏（Campus AIDS Interface）
澤畑 一樹（三菱化学 BCL）

研究要旨

若者が多く集まるイベントあるいは、大学の学園祭において、性器クラミジアの無料検査キットを配布し、郵送法によるクラミジアのスクリーニングを行い、同時に性行動に関するアンケート調査を行った。今年度の検査キット配布総数は、2045 例であったが、そのうち 499 例から検体が回収でき、総回収率は 24.4%であった。全体を通した性器クラミジアの陽性率は 7.6%であったが、回収率、陽性率ともイベントにより差がみられた。とくに、より若い年齢層が集まるクラブイベントでの陽性率は、男女とも 16～17%と高かった。性に関するアンケート調査では、性感染症に関する予防行動が行われていないことが示唆され、少なくともコンドームが性感染症の予防目的に使用されていないことが確認された。性感染症の検査や治療に関する要望では、「気軽に受診できる医療機関を知りたい」、「自宅で検査を受けたい」、「検査や治療の費用や方法を知りたい」などの要望が多くみられ、若者が検査を受けたいと思っても、検査を受ける窓口が少ない状況が明らかになり、同時に性感染症が心配でも、受診すべき医療機関に関する適切な情報がないことや、性感染症予防のための正しい知識の普及が十分ではない実態が確認された。今後も、各種行事を活用することにより、若者が性感染症のスクリーニングが受けられる機会を増やし、性感染症における無症候j感染者の実態調査を継続していくと同時に、性感染症の検査や治療あるいは予防に関する正しい情報を若者に伝えられるシステムを構築していくことが重要と考えられた。

A. 目的

平成 18 年11月に改正された「性感染症に関する特定感染症予防指針」には、若年者を対象とした性感染症の予防対策の推進についてその具対策が示されている。とくに、性感染症に関する普及啓発のために各種行事を活用し、検体の送付による検査の試行など、個人情報の保護に留意しつつ、様々な検査の機会を活用していくことが重要であると明記されている。さらに、研究開発の推進として、性感染症の無症状病原体保有者の推移に関する研究の必要性についても述べられている。われわれは、平成16年から、若者が多く集まるイベントを利用して、性器クラミジア感染症のスクリーニングを行ってきたが、今年度も、

性感染症における普及啓発のために、若者を対象として、性器クラミジ感染症の無症候感染者の蔓延状況について調査を行い、同時に性行動に関するアンケート調査を行って予防介入を試みた。

B. 対象・方法

対象は、東京都内で行われたイベントに参加した 10～20 歳代の若者および、大学の学園祭での検査の呼びかけに応じた若者である。

今年度に調査を行ったイベントは、例年代々木公園で開催されている、エコロジーをテーマにした「アースディ東京」および、「アースガーデン夏」と「アースガーデン秋」、さらに渋谷で開催された、クラブイベントの「ジャマイカフェスティバル」や池袋で行われた「P -BOY PARK」などである。また、首都圏における6つの大学の学園祭で同様の調査を行った。

方法は、イベント時にブースを用意して、NGOの協力者を数名置き、若者に話しかけて、まず、研究の趣旨について説明した。文書で同意を得た後、性器クラミジア感染症の無料検査キット、検査方法、返信用封筒、IDカード、アンケート用紙を同封した封筒を渡した。男性は初尿、女性は自己採取による腟分泌物を検体とし、切手は被験者が自分自身で貼り郵送することとした。クラミジアの検出はPCR法により、三菱化学BCLで一括して行った。検査結果は、イベントの約1か月後から、主任研究者が開設するホームページ(http://www.kensa.org/)に被験者自身がインターネットや携帯メールでアクセスし、自分のID番号をームページ上で入力することで確認できるようにした。

C. 結果

1)検査キットの配布数と回収率

今年度のクラミジア検査キットの総配布数は、2045キット、回収キット総数は499キットで、総回収率は24.4%であった。男子で回収率が最も高かったのはアースディ東京の 30.5%、最も低かったのは、大学の学園祭で 13.4%であった。一方、女子で最も高かったのは、やはりアースディ東京で37.0%、最も低かったのはアースガーデンで27.4%であった。男子では、各イベントで回収率の差が大きく、平均回収率は 18.5%であったが、女子では 25～37%と全体に高く、平均回収率は29.3%と高かった。

2)性器クラミジアの陽性率

クラミジアの陽性率は、男子では、アースディ東京で 9.4%(6/64)、アースガーデンで 2.8%(1/36)、大学学園祭で 0%(0/56)であったが、ジャマイカフェスティバルなどのイベントでは 17.6%(3/17)と高かった。一方女子では、アースディ東京で8.2%(11/134)、アースガーデンで 7.8%(5/64)、大学学園祭で 6.5%(6/92)でほぼ同程度の陽性率であったが、ジャマイカフェスティバルなどでは16.7%(6/36)と男子と同様に高かった。

3)性行動に関するアンケート調査結果

アンケート回答者の年齢構成をイベント別、男女別にみると、アースディ東京の男子では、10歳代後半が 15%、20 歳代前半が 56%、20 歳代後半が 23%という年齢分布で、これは、アースガーデンでもほぼ同じ比率であった。一方女子のアースディ東京では 20 歳代後半が 37.3%とやや年齢層が高い傾向がみられた。アースガーデンの女性と、大学学園祭の男女はほぼ同じ年齢分布で、10歳代後半が 18～24%、20 歳代前半が 62～65%であったが、ジャマイカフェスティバルの女子では、10歳代後半が 36.4%、20 歳代前半が 63.6%と年齢層が若かった。性交の初体験の年齢に関する回答では、アースディ東京、アースガーデン及び大学の学園祭では、10 歳代後半での初体験が多く、20 歳代前半あるいは後半と答えた被験者も 10～20%程度存在した。一方、ジャマイカフェスティバルでは、とくに女子において、10 歳代前半に初体験があったと答えた者が 18%みられ、

他の多くは 10 歳代後半と答えており、20 歳代で初体験したと答えた者はいなかった。Sex の対象に関する質問では、男性の 4.3%が両方、1.8%が同性と答えており、合わせて 6%は異性以外との Sex 経験者であった。一方、女性では異性以外と答えたのは 3.2%であった。これまで Sex した相手の人数に関する質問では、男子の 55%、女子の 64%が 1～4 人で最も多かったが、10 人以上と答えた者は、男子で 18%、女子で 12%であった。

コンドームの使用状況に関しては、男子の 68%、女子の 79%は避妊のためにコンドームを使うと答えており、性感染症予防のためにコンドームを使うと答えたのは、男子の 40%、女子の 36%に過ぎなかった。

性感染症の検査・治療について望むことに関する質問(複数回答可)では、男女とも気軽に受診できる医療機関を知りたいが最も多く、次いで、自宅で検査を受けたい、検査費や治療費について知りたい、具体的な検査や治療の方法を知りたい、STD の具体的な予防法について知りたいなどの順であった。

性に関する相談相手は、友達が男子 67%、女子 74%と最も多く、次いで恋人、医療関係者の順であった。

D. 考察

われわれの研究班における、若者を対象とした性器クラミジア感染症のスクリーニングは、開始して今年度で3年目になる。アースディ東京、アースガーデンでのスクリーニングは毎年行っており、この3年間の推移が比較できるが、昨年のアースディ東京のクラミジア陽性者は男子で 5.5%、女子で5%であり、今年が男子9.4%、女子で8.2%と今年の方がやや高かった。また、アースガーデンでも昨年は男子で 3%、女子で 4%程度であったが、今年は男子で 2.8%、女子で 7.8%と女子において今年度の方がやや高い傾向がみられた。また、大学の学園祭では、今年度は6大学と枠を広げ、検査キット配布者は、男子417名、女子 370 名であったが、その回収率は男子で 13.4%と他のイベントと比較しても最も低かった。一方で、陽性者はゼロで予想外の結果であった。平成 15 年度に、前研究班の「性感染症の効果的な蔓延防止に関する研究」班で、主に札幌地域の 150 名の大学生を対象として、健康男性のクラミジアスクリーニングを行ったが、その結果は 4.7%の陽性率であった。大学生の女子では、6.5%のクラミジア陽性率で、他のイベントと変わらない陽性率であったことを考えると、今回の男子学生におけるクラミジアの陽性率の低さはどのように解釈すべきか難しいところである。一方、渋谷あるいは池袋などの歓楽地で行われた若者向けのクラブイベントでは、クラミジア陽性率は男子で、17.6%、女子で 16.7%ときわめて高い結果であった。興味ある点は、これらのイベントにおいては男女とも他のイベントに比較して、検体の回収率が低かったことである。このクラブイベントはアルコールなども摂取可能で、どちらかと言えば男女とも、普段から遊んでいる若者が多く集まっているとされており、かなりバイアスがかかった集団であったことが予想される。すなわち、性感染症の可能性が高く心配があった者が多く検体を送付してきたと考えられる。このことは、アンケートによる年齢構成が、この渋谷でのイベントでは、とくに女子において 10 歳代後半の被験者が占める割合が他のイベントと比べて高かったこと、さらに、この層では、性の初体験の年齢も他と比べて明らかに低かったことからも推測される。性の初体験の年齢が低い程、クラミジアの陽性率が高いことは他の報告でもみられていることである。また、今回のアンケートから、性感染症に関する予防行動が十分には行われていないことが示唆され、少なくともコンドームが性感染症の予防目的に使われていないことが確認された。この点は前年度までのわれわれの研究班の調査でも明らかにされていたことであるが、若者に対する性感染症予防のための普及・啓発が

依然として不十分であることを示すものであろう。

性感染症の検査・治療について望むことに関する調査結果もここ数年、変化はみられていない。気軽に検査できる医療機関を知りたいや、検査費や治療内容に関する要望、あるいは自宅での検査を希望するという要望も多かった。若者が検査を受けたいと思っても、検査を受ける窓口が少ない状況は依然として続いており、同時に性感染症が心配でも、受診すべき医療機関に関する適切な情報がないことや、性感染症予防のための正しい知識の普及が十分ではない実態が確認された。われわれの研究班で運営しているホームページには、性に関する正しい情報を掲載しており、もし、クラミジアが陽性であった場合の医療機関への受診方法や信頼できる医療機関についても地域ごとに紹介している。無料の検査キットを受け取った後、検体を送りたくない場合でも ID カードに記載されているホームページにアクセスすれば、性感染症に関する情報は得られる仕組みになっているが、まだまだ、その利用は十分とはいい難い。

今後も、各種行事を活用することにより、若者が性感染症のスクリーニングが受けられる機会を増やしていくことが必要であり、さらに、性感染症における無症候感染者の実態調査を継続していくなかで、各種のツールを用いて、性感染症の検査や治療あるいは予防に関する正しい情報を若者に伝えられるシステムを構築していくことが重要と考えられた。

E. 結論

若者が多く集まるイベントや大学の学園祭などで性器クラミジアのスクリーニングと性感染症に関する予防介入を行った。全体を通した性器クラミジアにおける陽性率が 7.6%であったが、より若い年齢層が集まるイベントでの陽性率は 17%と高かった。また、性行動に関するアンケート調査では、性感染症に関する予防行動が十分に行われていない実態が明らかになった。今後も継続して、各種行事の活用による性感染症のスクリーニングを行い、性感染症の検査や治療、あるいは予防に関する正しい情報を若者に伝えるシステムを構築していくことが重要と思われた。

F. 研究発表

1）小野寺昭一：わが国の性感染症の動向. Mdbio 2007;24(1):28-35

2）小野寺昭一：性器クラミジア感染症の現状.
小児科 2006；47(9):1301-1306

3）白井千香、小野寺昭一：若年者における無症候性器クラミジア感染症の実態把握と蔓延防止システムについて. 日本性感染症学会誌 2006;(17):28-34

4）白井千香、中瀬克己、小野寺昭一：性感染症に関する「特定感染症予防指針」に基づく取り組み状況の検討－全国の自治体、保健所を対象としたアンケート調査－ 日本性感染症学会誌 2006;(17):58-64

G. 知的財産権の出願・登録

なし

小野寺班2006年度集積データ
（イベント会場によるクラミジア＆アンケート結果）

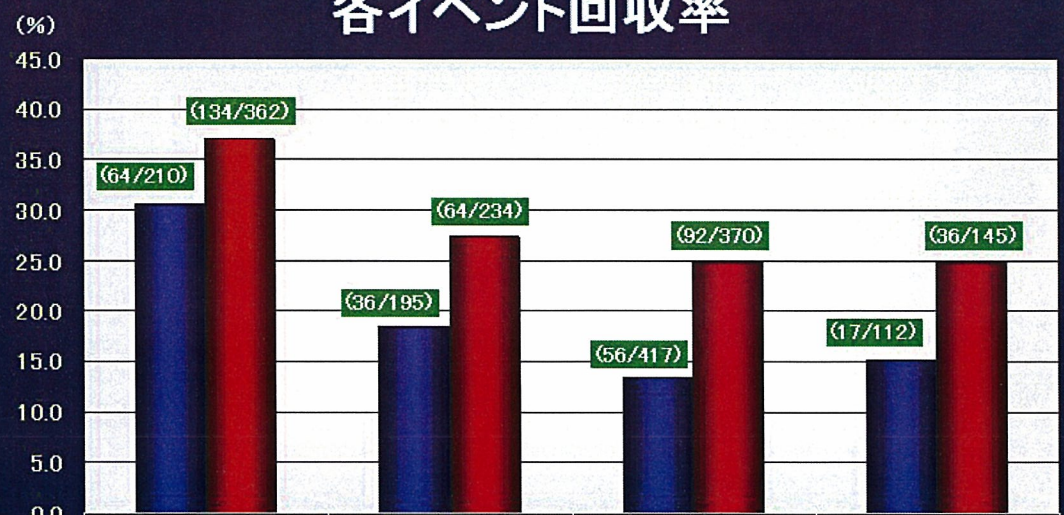
2007年3月3日
小野寺 昭一

クラミジア病原体検出結果

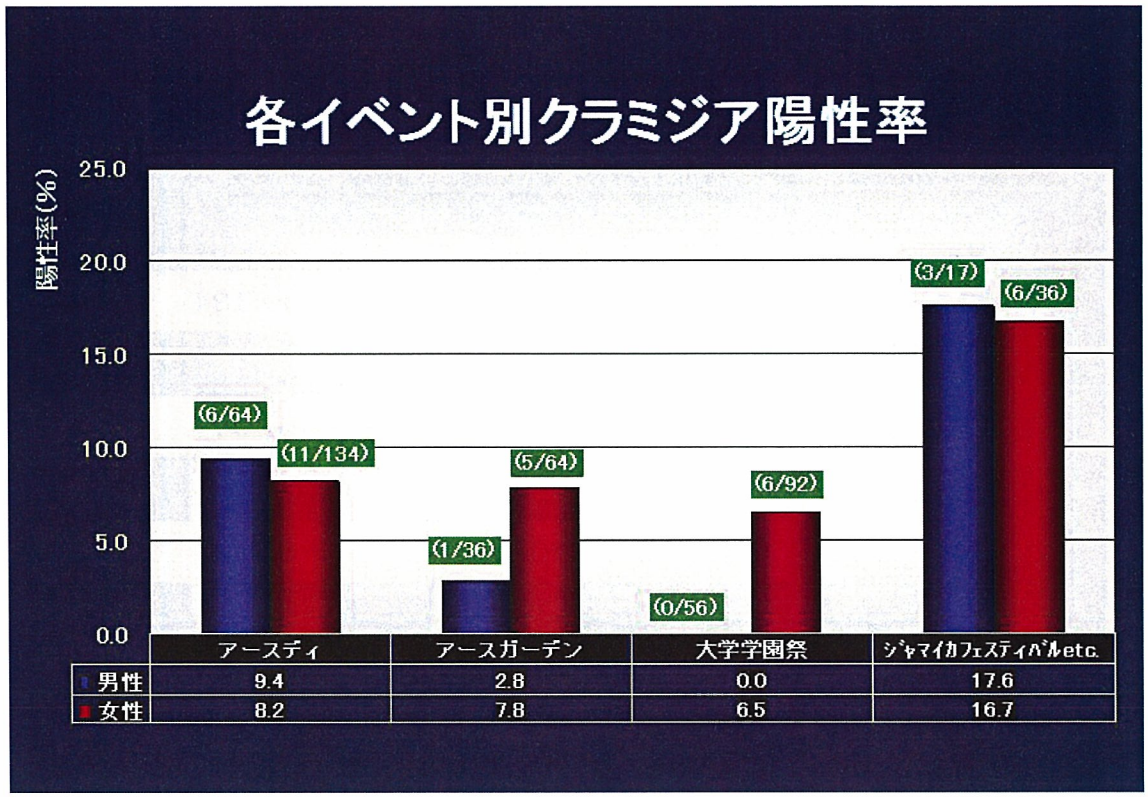
平成18年度‘クラミジア’イベントスクリーニング結果

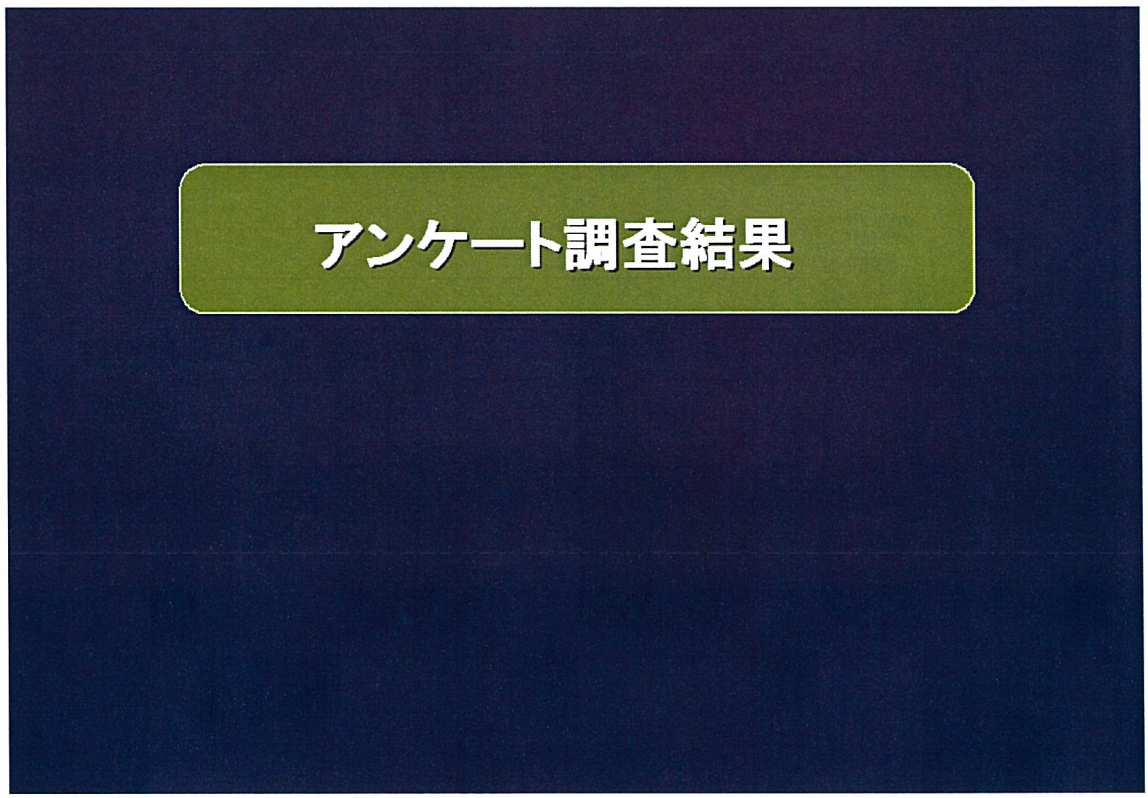
		回収数／配布数	回収率	陽性数／測定数	陽性率
アースディ	男性	64／210	30.5	6／64	9.4
	女性	134／362	37.0	11／134	8.2
アースガーデン	男性	36／195	18.5	1／36	2.8
	女性	64／234	27.4	5／64	7.8
大学学園祭	男性	56／417	13.4	0／56	0.0
	女性	92／370	24.9	6／92	6.5
ｼﾞｬﾏｲｶﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ etc.	男性	17／112	15.2	3／17	17.6
	女性	36／145	24.8	6／36	16.7

各イベント回収率



	アースディ	アースガーデン	大学学園祭	ｼﾞｬﾏｲｶﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙetc.
男性	30.5	18.5	13.4	15.2
女性	37.0	27.4	24.9	24.8


各イベント別クラミジア陽性率
陽性率(%)
25.0
20.0
15.0
10.0
5.0
0.0
(6/64)
(11/134)
(1/36)
(5/64)
(0/56)
(6/92)
(3/17)
(6/36)
アースディ
アースガーデン
大学学園祭
ｼﾞｬﾏｲｶﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙetc.
男性 9.4 2.8 0.0 17.6
女性 8.2 7.8 6.5 16.7


アンケート調査結果